

大学院修士課程体験記⑩

丹 治 雅 文 (たんじ まさふみ) 医学院免疫生物学教室



私は医学院修士課程（医科学コース）に在籍し、免疫生物分野（遺伝子病制御研究所）にて清野研一郎先生のご指導のもと研究を行っています。この度、体験記を執筆させていただく機会をいただきました。修士課程に進学するまでの経緯、これまでの大学院生活

の振り返り、そしてこれからの目標について記します。

【修士課程に入学する以前】

私は明治大学農学部生命科学科に入学しました。幼少期から好奇心旺盛で生き物好きだったので生物系の学部を漠然と選びました。入学当初は自分が何をしたいのか明確に分かっていませんでしたが、乾雅史先生の講義を受け、発生生物学に興味を持ちました。その後、乾先生の動物再生システム学研究室に入室し、筋肉と腱の発生に関する研究を行いました。初めての研究生活は困難も多かったのですが、自分の興味を持ったテーマに毎日向き合う生活がとても刺激的で楽しかったです。最終的に卒業研究の成果を査読つき英文雑誌に掲載することができました。乾先生の研究室では、研究に対する基本的な考え方や、研究に携わる人々の心構えなど、多くの価値のあることを学びました。それは私にとってかけがえのない時間となりました。

【修士課程入学の経緯と入学後を振り返って】

2018年に京都大学の本庶先生がノーベル賞を受賞されたニュースを見て、多くのことに興味を持ってしまう性格が影響したのか、大学院では免疫の研究をしようと決めました。免疫学の研究が行える研究室を探している過程で、現在所属している免疫生物分野のホームページにたどり着きました。農学部出身というバックグラウンドから、医学部の研究室に参加できるかどうか不安でした。しかし、そのホームページに他学部出身でも歓迎してくれると書いてあったため思い切ってZoomミーティングで面談のアポイントメントを取りました。初めて清野先生とお会いしたときは、非常に緊張したのを覚えています。見学の際研究室の雰囲気が非常にアットホームで、ここでなら免疫学に関する研究に打ち込めると感じ免疫生物分野に進学することに決めました。

私はそれまで関東圏以外で生活した経験がなかったため、親や友人からは反対の声もありましたが、最終的には北海道大学への進学を決定しました。

入学初年度は、私にとって挫折の連続でした。今思うと大した悩みではなかったのですが、慣れない環境で全く新しい研究テーマに取り組むことは、予想以上に大変でした。そのような時期に、和田はるか先生には非常に

助けていただきました。和田先生は、多忙なスケジュールにもかかわらず、実験手技や免疫学の基本について丁寧に指導してくださいました。そのおかげで、一時は研究を辞めようかと考えたこともありましたが、徐々に自信を取り戻し、研究に対するモチベーションも高まりました。

現在、私は清野先生や和田先生、そして免疫生物分野のメンバーの力をお借りしながら日々実験に没頭しております。そのような環境で、自分自身が関心を持つテーマに熱心に取り組める現在の生活は何とも言えない満足感があります。

免疫生物分野では、がんと移植に関わる免疫メカニズムの研究が主要なテーマとなっています。研究室は常に活気に満ちており、メンバー間での議論も活発です。このような刺激的な環境は、私にとって日々の研究活動を更に推進する力となっています。

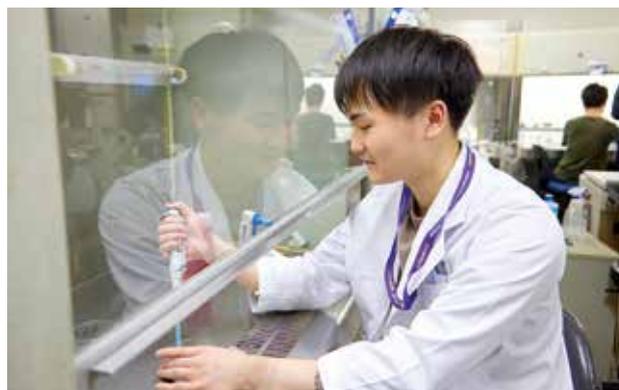
【これからの目標について】

修士課程終了後は博士課程に進学し、引き続き免疫に関する研究に携わる予定です。進学を決定するにあたっては不安も多くありましたが、清野先生や和田先生が背中を押してください、自信を持って次のステップに進むことができます。

博士課程での主な目標は、自分で研究について計画、実験を行い、成果をまとめることです。いつか清野先生や和田先生のような立派な研究者になれるように進学後も日々努力したいです。

【入学を希望する皆さんへ】

前述の通り、農学部出身の私でもなんとかやっています。そのため、異分野からの挑戦も不可能ではないと強く感じています。また、免疫生物分野では先生や先輩からのサポートが手厚いので、安心して研究に取り組むことができます。そのような充実した環境がここにはありますので、皆さんも不安を抱えず、積極的に入学を考えてみてください。



細胞培養を行っている様子